



此の書は...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

卜筮盲節序

随貞先生卜筮の妙を極く乾坤の幽微
 如く風散の如く又巽順州の偃のくふふ仙
 少せうのま経けいの書ハ是こゝ己こゝに刊えん命めいをさる
 亦また城じやう院いんるく坎えん水すゐ湛ぜん然ぜんとして深ふかく艮かみ山
 巍き然ぜんとして高たかく漢かん風ふう四月しがつに終はる
 とれとも禁きんせぬと云いふは用もちてをさる



なす一いつのふ事んかしきや今やそ其家
中々々迎へ入文飾文飾を加へしして兒女子の
蒙ふ一とと曉しやきく神の乃照鑑
晦々々福福を示す然特的小意
免々己を省し人をききめ善をかまの
一助とふさんまを然も一斤のほあんふ
は己の殊々ゆき晴ふ離々の明をハ揚々
廣々く兄洋の思思あを極まものあり書

来々上下二巻目々々ト筮筮自自印と
ゆふ乃其志を申々々きこのそま符じし
らん事事成成喉々々香園々々字を海々々
志志の衆

寔屬寔屬賀百初夏

随運堂俊仍識



增補卜筮旨節目録

一 筮之例 并卦之傳

一 八卦之傳

一 六十四卦之傳

實夏 古人之占 射覆 待人 失物 願望 天氣 賣買

一 病之占

一 百人一首之傳

一 按卦之傳

并卦之傳 秘決を加ふなり

秘決を加ふなり

○ 筮の例

筮 收 五十本 周尺八和尺の六寸四分を二尺と尺

筮の切口上のうゝとを朱下の方を黒くを

陰陽と上下を分るなり

筮盤の式ハ古法あり古書を考へて

自好む所よふく 卦 改く作るべし

算本の式もこゝろを考へべし



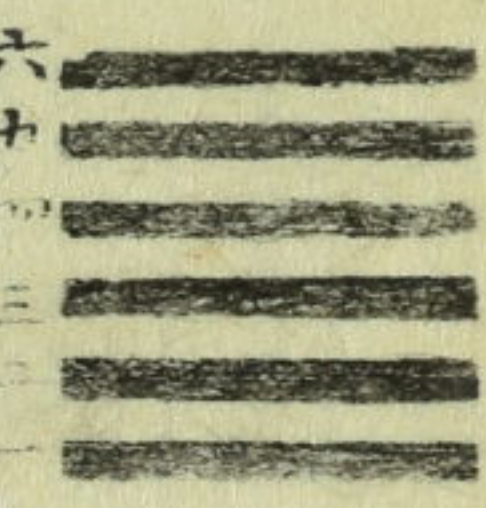
○ 著の儀

又十本のゆゑとあるは、持天辰を拜し、
形星のあどは申す、咽へ又十本のうち一本を
下の中へ是を大極と云ふは、残星は十九本を
あ儀小分る 五の半はニツカ 中のふもるは、下小
垂と云ふも、一本をりたの小指のふもるをも
うてたのふも持する形星の著を八本つかぞ、
但し小指の あまり一本あもを乾二本あれを
兒三本あもを離二本あれを震六本あもを巽
六本あもを坎七本あもを艮八本あれを坤の
卦 知ると知る 一と一 二と二 三と三 四と四 五と五 六と六 七と七 八と八 九と九 十と十

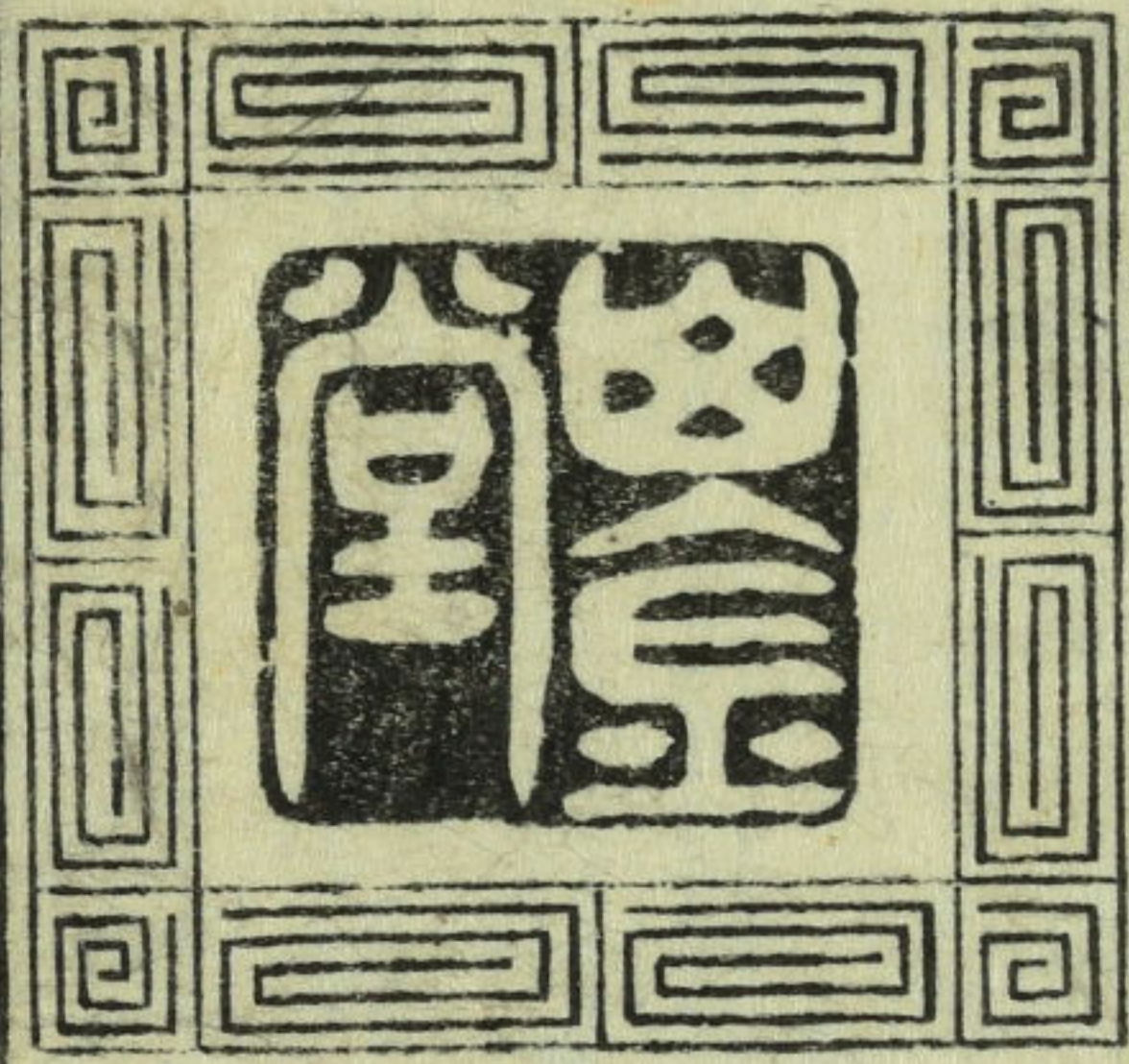
ふもも、一本と下の中垂とこの二つと
分て右と下は垂又あのごとく、かぞへるこ
一本あももを乾二本あももを兒三本あも
もを離二本あももを震六本あももを巽六本あもも
坎七本あももを艮八本あももを坤の卦かり
さきり垂ととりなりハ二度目の下卦のたの
ふもも、あももを六本づかぞへ、休
残一本あももを卦の一と支へつく二本
あももを二と支三本あももを三と支四本あももを
四と支五本あももを五と支六本あももを六と支七本あももを七と支八本あももを八と支九本あももを九と支十本あももを十と支
あもも 一と一 二と二 三と三 四と四 五と五 六と六 七と七 八と八 九と九 十と十

交とハ一卦と一爻と 文より右中卦と爻卦とを見
云とあるべし 爻と 爻と 爻と 爻と 爻と 爻と 爻と 爻と
合く判談志一 爻に標あり

爻爻付標 爻と爻と爻と爻と爻と爻と爻と爻と



一爻爻を初爻と云
六爻爻を上爻と云



先生家藏の書出らるる
以印を揮出さるる以印
なるる偽板なるる筆紙
察し初らるる

増補卜筮旨筌 卷上

平澤隨貞先生口授

門人 龍足子仲祇貞 談訂



乾天父金

大西 赤北 圓 白辛

乾くきくかかく 乾くきくかかく 乾くきくかかく
物どのをる基 やがをる基 天也一との理 やがをる
地也の理 うり切りての理 一のををる理
やまのすくくする理

本草綱目



兌澤少女金西 もろ 牛月 もろ 白辛

うつくしくうつろいどんくふあうものを入る
お氣の死あぬ急のあぬ花あぬのあぬ口長あり
あつとぶとまろる 西清 甲乙記



離火中女南三角 △ 赤苦 あか

うさる けりどりのやう 文字 あぐく肉あをたごむ
あまごう 紙 皮のあん 多むいものあん ぎふとどろ
つくくをある



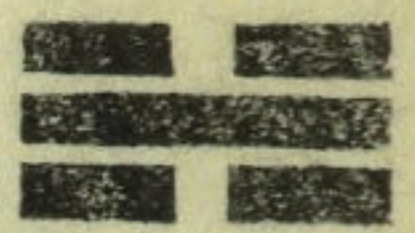
震雷長男堅木東 團 ○ 青酸 あま

うごころ ぞつころ 多うつころ ひとく あぐくまく
うけつ ころなるう ともめあん 葉木 葉あ
あぐくく さまぐく 根あびさる



巽風長女弱木東 南 青酸 あま

いとむい あめりやのう ながれり 全物 うつあ
さく物 淋きんゆがむにを ぎれそを ぼそ
白ひいあ 入れ物 虫のあん 葉あぬ

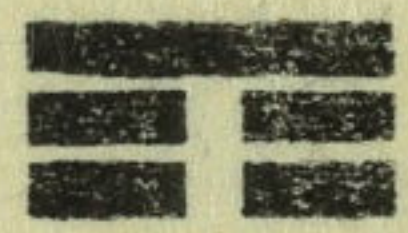


坎水中男北

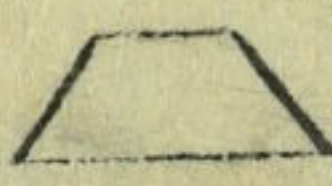


黑鹹

さしこむ 入るう ああうう うつらう 金抱う 修う 包むう
引さる 邪氣 是のあん 是のあん 引さる 引さる
花さき 是あんの程 必結 めさる程

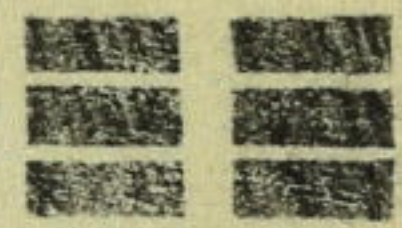


艮山少男土北

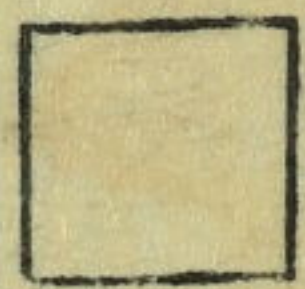


黄甘

つまむ ともやう いらどり まりまがれ じむ 老る
やさこの 引さる 引さる あさあさる 多さる 紙る
海あがり あさる



坤地母土南西



黄甘

粉 うさあ やくくくくく 教る せぶう
せりまがれ めるう 金さる 食ひさる
丸ゆきき 方なるう 兼まよなるめり
まのうげのうつらう 天の程 かん方の程

合文

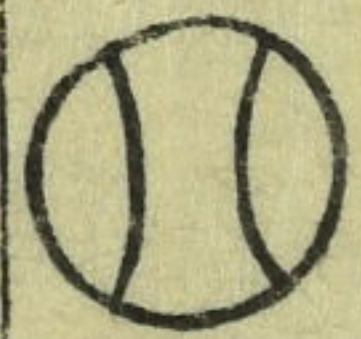
○待人まちひ

○失物ふしもの

六十四卦之傳



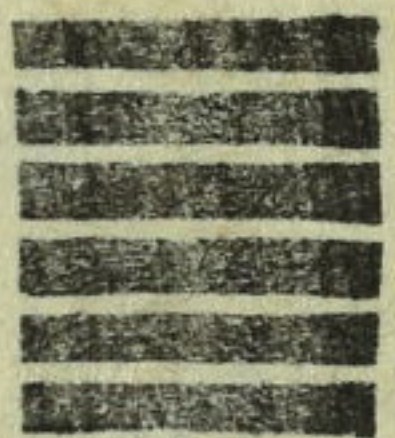
願望げんぼう



天氣てんき



賈買かうばい



乾けん為ぬ天てん

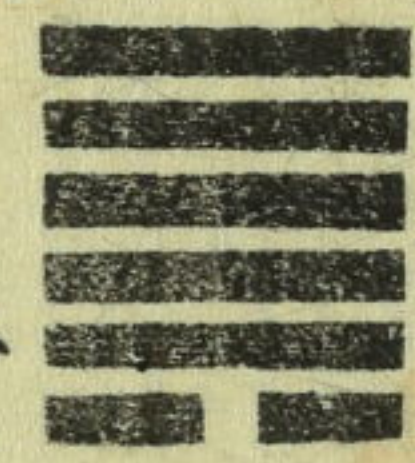
六龍御天之課 廣大包容之象

コレヨリ下八卦象ノ字ヲ畧

うまのこころをくわねむるまよくしそをかりて
し紀ららうあり同じのまぶらひもぐ縁
金銀ふらうしそたましく金銀あつ之ども
ふふ入らざ候ある人をすしかりて人を
このかたうしむすのそ多したのそと
人をまひたり又たのりるすあり同じの
人とまひ合ありはあつとそ縁を
あり

金物の程をまふありしあつとそくう
表ありひらけらうそあつとそくう

そととひゆきありやうまのを居りの
このまのうあまを 養ふのまのるん
狎の散れ破るもの ちんまの
右人のあまく大ふりくまらうり ちん
西へのちんまらうり 山あの色 物作らう
文画勇中しく大ふ徳あるう人のままら
しとらう世のいあまらう 佐新しとらう
○おまありおまし 〇救まを和にあり出
がこし方ハ和ハ 〇やうまを和にあり出
叶がこし 〇らとらうあまらう 〇るに
あふあし



天風姤

風雲相濟 君臣會合

女を人ゆく男み人よ對してあうまごごとし
初まぐしあまのるんありおまらまらうり
まらうちあまのるんひとりまらまら 女ふつこ
ららうおのまらありなり 今報ま大ふら
しむ 同との人とまれ合あり ん男まらあり
がこし
丸あま理先をつらうさたをまらう
ひものるん あまらうあまらうひら
あまらうまらうあまらう今まら
右人のあまらうひ女のるん 佐新のまら

言

あつらひぬ づらのまのり 大いなるうらみ 芳しと
おわりわしきり 法ryōとてさるう 方かたことくけまわり
るあつらひと

○あそく事とてー ⊖ 東南小せくゆぬ
⊗ あつらひくみりぞ ⊗ くのり風 ⊕ 賣小者
買小あし

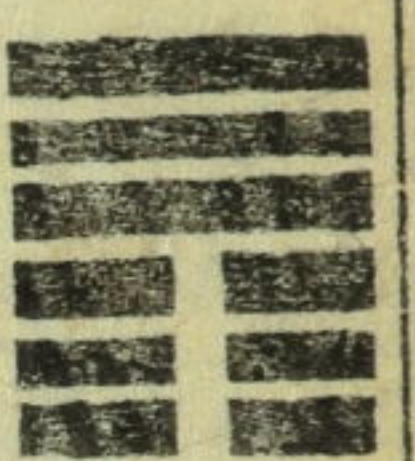
 天山遯

豹隱南山 遷善遠惡

俊雨のくらうあしく 新なる若わかと多くてたまく
あつらひてとまのりまぢひらりあわん
落つまがことーくらう多くひらひらめとあり

ぞくう又きのがすりきむゆめがごー
丸角トちたたるのうとゆうあるべー
つまそあゆる理 んがきこるうころりなるう
ま多て重くおろ ちたものう ちたおめべー
おんハーび俊雨とありぞけからまこるう又
ちるぐーあつらひとさるうらうらるー
ひありのきふめをかろーあつらひと終りあ
はる大ふらと芳しとさるう

○あそー ⊖ 出ぐとー ⊗ けとごー
⊗ 風あつらー ⊕ ころあつらー 買小あし



天地否

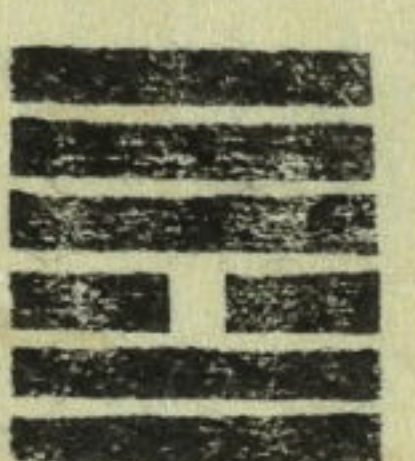
天地不交 人口不圖

四方ぬきぐりたるやうゆてまらうしむ又同じの
人よつらくまを合らうあんなまありさま
どもす敷小運うん即しくわごありてこくバひ
くるおとあさぎたるやうなりつゆハ即け
さうあるみままへやどす
あこあさうまがとこらうまのりまが紀押命る
ぶあひよきうむら花はなまのこごひうまをくかく
まのり
右人の同うとらうと備らうさうりおとらへ
のどもをさうらうらうとらう又まらうし

くあうあまをまやうらうおまをまとめ
あうまひありし人う

○つとありきさうさうまらうとらう

○月とふさつらうとらう ○老 ○冥小者愛小惡



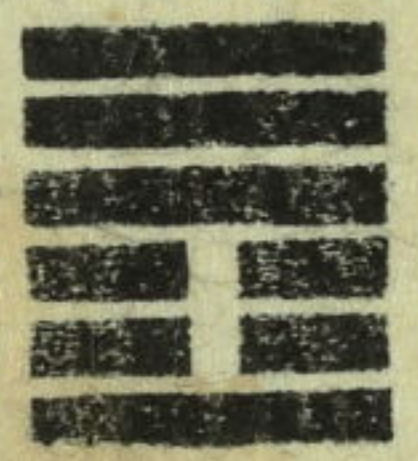
天澤履

如履虎尾 安中防危

おふまのたぐと強たぐきあやがとらうとらうとらう
何れのとらうまあれどもなんかくあがまらう
女のをごうふやうらうとらうとらうとらう
とらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう
とらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう
とらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう

生ぬのゝ人ん ころろ人ん さまんごるもの おま
 りやあつたあまのり 外あつくつふまをのり
 ちんハつたなくましく さまんごるもの 強まら
 あやうたあまあふごるり 探のあん 引あつり
 ちまごるりあなりごるり あまごるり

○つとをたおをけれごるり ○あがに ○礼に
 かりごるり ○晴べー ○利ごるり



天雷无妄

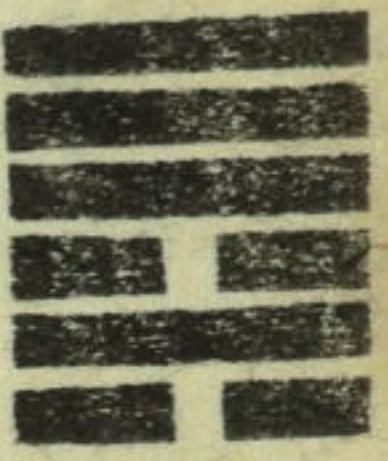
石中蘊玉 守舊安常

甚くごるり 病ありあやごるりごるりごるり
 さごるりごるりごるり 病ハ甚とあごるりごるり

とごるりごるりごるり 天災の卦あればあまあつた
 何れり 強ごるりあまあつたごるりごるりごるり
 らごるりあり

あまあつたごるりあつたごるりごるりごるり
 丸ながごるりごるりごるりごるりごるり
 めのりあせんごるりごるりごるり
 右人の天災の程 甚とあつたごるりあやごるり
 めああひごるりごるりごるりごるり

○あごるりごるりごるり ○あごるりごるり
 ○人ごるりごるり ○あごるり ○あごるり
 始め利あつたごるり
 ども利あつたごるり



天水訟

俊鷹逐也 天水相違

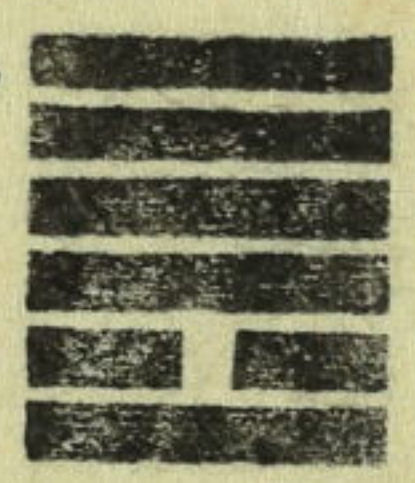
お中うこそある人う同うへの人とまき合うあうをひ
まのまおつうき人あり 怨望さつりありき
あ衆方のうへともふまめ おうま合 見くを
亂ふちりあり ちうくちいなるを 又ばいぶの
物取まる人う

救あるものう申うま命 金物うまるどめさう
さーこむうぐひひよだめものう 宍のあるものう
あひが ありうま 上下をさるんあう
右人ハあうをひ終りひきさう 物の師なるう
いさやひあり カあり 又まるどま 疎部小銃り

なごあさるうめり

○がーおほし ○中えくそむく ○めつれ

漲はげは借 ○ぬぬー ○つーむべー



天火同人

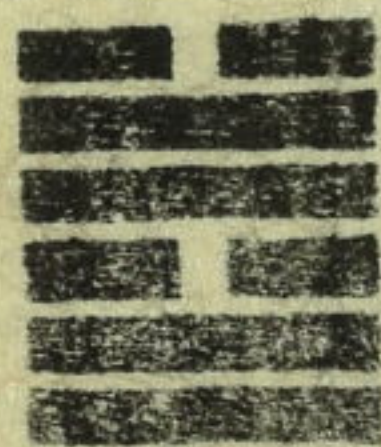
遊魚従水 二人分金

大よ者あさー人人と心を合せよだりとあや
合せよあーくこのひさりやく人ハ能くあは
りとのひと者とかく物来しうをうををん
くせぬとあやうておんを中てあ
まのまののう 人ハあさーむものう 弟あつて物
ぐあひよきさう まりまがだありてえさうなるう

右人ハおのりあつて事志を志す一命せるり
文を志すともおのり人り事志のこり一命
のこり一命あつて事志を志す一命せるり

○きつる ○出べー ○あいてきてる ○晴天

○ととも小利あり



兌為澤

江湖養物 天降雨澤

たつひあきあつてひたつておのり二人あり
とつあつてやうありあつてありあつてありあつて
きつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてありあつてあつてあつてあつてあつてあつて

なまこためせとつておのりあつて

口のあつてあつてあつてあつてあつてあつて

ぐあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

福せおのりのあつてあつてあつてあつてあつて

おのりあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

長社のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

ざつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

○あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

うせー

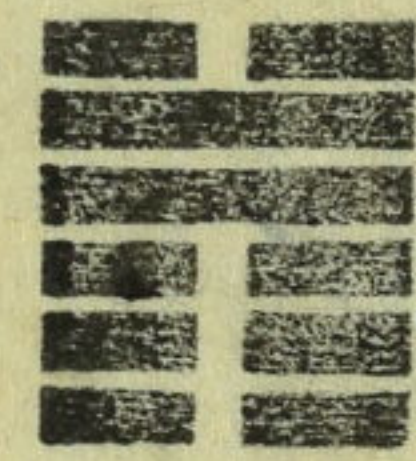


澤水困

河中無水 守已待時

大不困窮の卦あり幸うけざる一全報に
つあり幸ありやむ方うふませずあとも
河中小ありあきとく中てあつさつさ不自
中あり一少一多の意あり又象定まらざる
形をかかひせあめらるるむまき抱のあさう
あまうおひあつものふをあきとく飛さう
うらうら火きあきとくやうとく抱り包れてさう
具足するものふをさかく
右人ハ幸ひあんぎらうと力ありおまらる
りあり骨折らうとるさう也

○おをかぐー ○ふたぐじ ○終てあは
おくとく天をれ 財をさお利あり



澤地萃

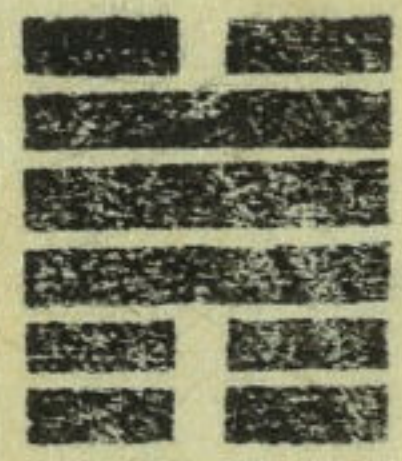
魚龍會聚 如水就下

象うまきこのむりあり徳揚負りまきく
洒さうかまきく 徳りなるとまきく又ハさうあり
しれり利徳小をまらり 徳のらうあり
人出入多く 徳しき体なり 徳あり
救あるもの口のあんふらう 命抱うさ
をのうらうらう 徳らう物抱う内のらうと抱
文を あつらう抱り

他人の人ありあつらうあをいれりなるか小住るる
はふまごあるうあくとあをいれらる物なり

○きこる ○おとれはひを ○たごしからば

しそ然るうかま ○あり 利あり



澤山咸

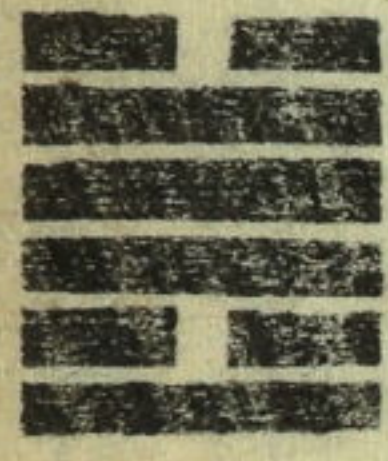
山澤通氣 至誠感神

男の女よりあつらふこまをいれり 傑あり 止へ
なごし又なごるるあをいれむ女のこまよりあつら
かあつらありまごし人小住くまをいれり
うしそそありてまごし大あより人小感ト
あつらふこま

きこるものよまをいれり 美をいれり 人小住るる
口のあつらあるうこまはらとまをいれりあり
他人はたつこまをいれり 女のあつら
款人う世をあつらるる人うほめしこまをいれり
名をいれりしこま又なごるるあをいれりあり
あつらふ人うあつらふ

○きこるうあつらふ ○出べり ○他あり

あつらふ大者又婦人 ○あつらふ ○あつらふ
あつらふらうあり

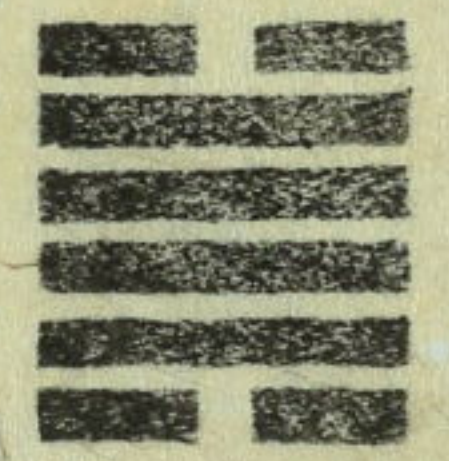


澤火革

豹変為虎 改奮從新

半を改め又操福とくくみそを幸ひ女が
 多ありありもまじのじ男よ小まあるひくう
 おまじもせりぬあうり改りて世を男一く
 ううがよ
 物と改めあやまききさう 凶成入さ
 一うらうああるうん幸ぬあうさ
 さく物う二人をくううをゆをか
 そのう
 老人ハあうをひ 文をあういあ
 いまひたりき人う又かきさう又せ
 こまぐく浮志づとありしうぬせつあ人
 なるべー

- きくう ○ 出がし ○ 家一さびおとらへあび



澤風大過

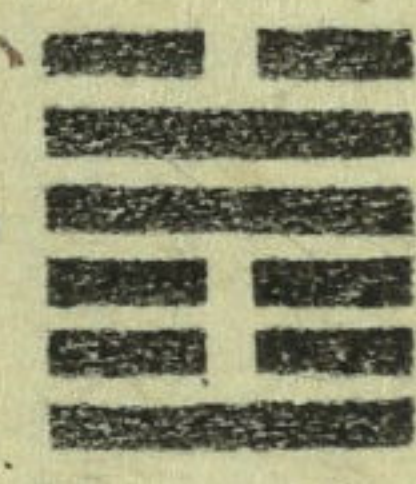
寒木生花 木末俱弱

心をうつてあさうむ物お悔まらう 子
 ちひる遠 めぢきもぢき おあつさうらう
 多一 本末ともお弱一又出家長社のあひお
 多ありも幸ぢがひ皆あぢひの程
 多ありん遠のものゆ急 横小はあうう風
 仲うのうう 弟お 弟がさあう うら
 老人ハ場さう 長継う人せうせう 教さうさう

有遠小あひりうりりるもの人々好むあひり
又もどるもどるもどる人のつひあひり大なるをな
たりうあひり

○有ちがひ ○の程あり ○ある自滅の程
を程とせらるる

○有 ○了首遠又ハるあひり光接強あり



澤雷隨

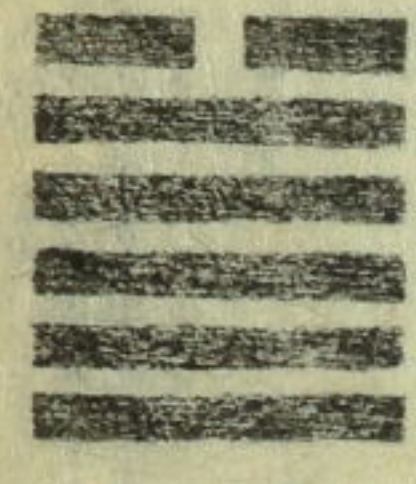
良工琢玉 如水推車

程和らるる程くさるるを方の程生れらるる
もあひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも

あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも

○あひり ○あひり ○あひり ○あひり
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも

○あひり ○あひり ○あひり ○あひり
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも
あひりもあひりもあひりもあひりもあひりも



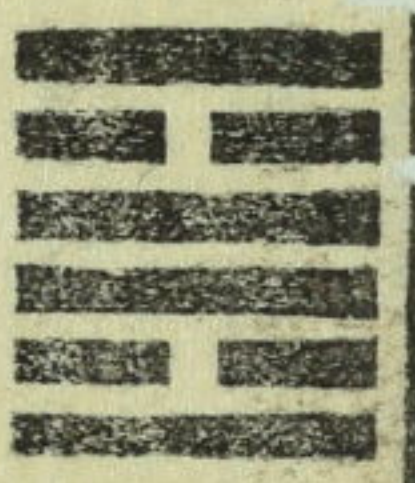
澤天夬

神劍斬蛟 先損後益

生色する位はよしとどごと他人のきざり
くらうを重んずるくむのうおふ人おかくしと
氣のをもと大あり人と難ひ福をもむる後之
必業定まらに難ひをこむひのくはし多し
切らざるむおんまりまらさくこはるなる
食をのう食ののうはあさり 捨てるもの
古人ハ軍をどりし切つ又さそれつどせし
物と又変し捨めころん

○ おそるべし 引くまておるべし

☰ そのとけつて 変せざるあり ① ぬ ② 利うせざるべし

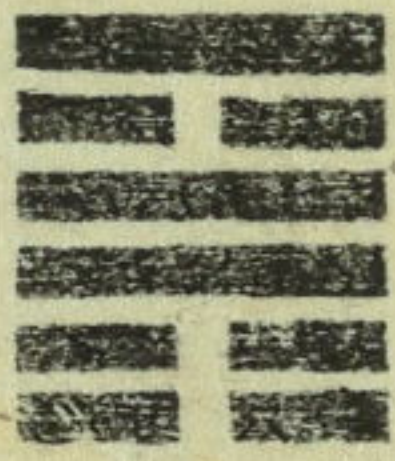


離為火

飛禽遇網大明中天

あしきものふをあき 位不あまひ 他人の
業のふは合あり 必業さどゆらばあし業此
ふあり 多ん業あり 男のあしらへ表むるさ
かざらざるいあま くらうさど物をあま
あしき事多し
あまあるものう 火事う 難きう 救あるの
えさう かざるう 文をう げのうなる
物と入るう ながく やがまやまらる 甚
つくる
古人ハ文章名をあらうしるうか記のしるう

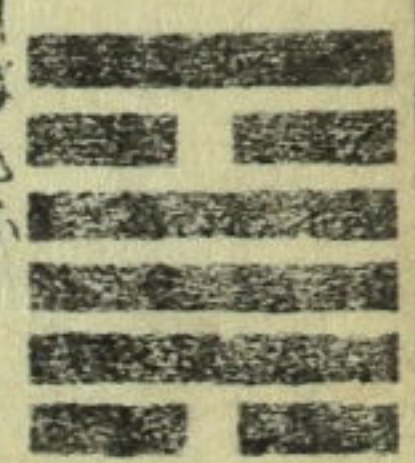
ありをひちうりあり 位をわかれちうりくと
ひりきころり ゑをえんごりり 終あしきりり
○ 少くころり ○ 出のじ ○ あんこころりころり
あむたき ○ えんごりりおのりり
さりり多しきあへ ○ 晴天 ○ えんごりりあむべ
んかりふり ○ えんごりりあむべ
如鳥焚巢 樂極哀生



火山旅

如鳥焚巢 樂極哀生

何のゆもあし、位わくくす
いりどりをもゆり せりまがきい さいく見事
たさる まある かくり 宿あるり まむびく
おまあるり 又まあるり 来るり る物
引つけさる く海をまわぬのり
右人の位をえをあるり ささる人
又ささるのころり くいりり
大聖孔子御一代の卦也と云
○ 来さるり ○ 知れり 外へせり ○ あむべ
あむべ ○ 晴天 ○ 損あるり



火風鼎

調和鼎鼎 去故取新

可敬む一切不出る又此文書射り物あり
今多しかあ人の卦の色を争ひしり物此
わうしまるる又ハ物の極まるるなり
うあへなきバなぐはうつりなるる今物
おしりこり文を物とらめあうし物物
おりれもの火事あるあるり
うごうぬものり
お人ハちううあるる争ひあう又文を
書あどいふれる人うてうをふある人うトモと
しとふをわうしるる



あがかりおじ

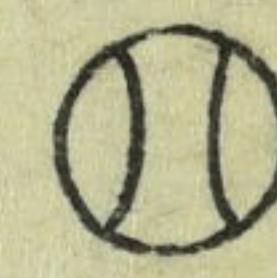


あべー



あまのむらさ

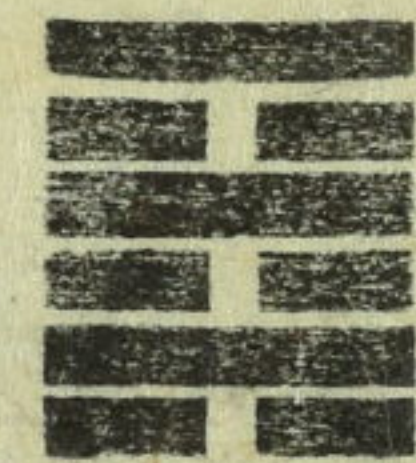
その極まは



晴天



よあー



火水未濟

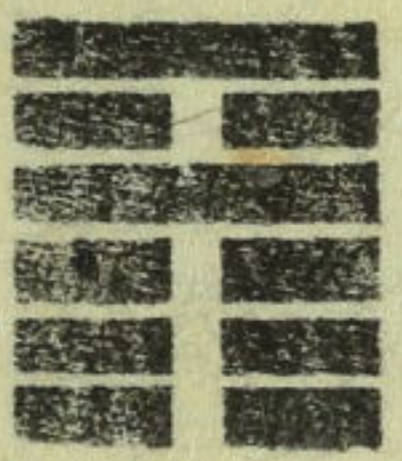
竭海求珠 憂中望喜

恒糸のらう 必粟有とささゆらば何なる
中つむど知まぬといのあうなり火ハふああり
あハふああり臨陽まどいづぞ
しとをせだあうはくやうこがー
あーあり
あー合らうなるるあうやが色や
んりなるる女子のあうるあう文を

あはれものうかしの入るるものう
古人ハ修而実るは方とあり然るる智徳あり
力ありり徳ありあり女りふりて事あるる

○ 未だ一 ○ せんごふあり ○ 漸るふおは

○ 晴天 ○ 足合くよあり



火地晋

龍劍出匣以臣遇君

物をえうけくあまりおまむるはあまりぢうあ
ううありあまをへあまうおふはあ
大おまをてしうまをくまをふまむあり

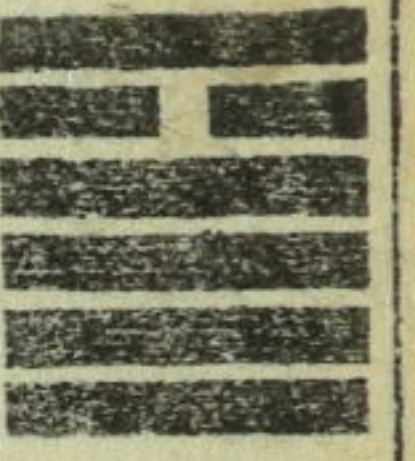
女小せりをらるるあま

そのとやがるやがるまうやう入り入る
火事のあんありあへくううううう
あるものをあつあうううかこ免るる
凡あううううけこなるる

お人ハあまあひまると中々終りあはれ
そのとやがりうううそのおあうううう
けつまよえりううう又事を改め
ううう文をあらうあま

○ 未だ一 ○ 未だこれあまをけはあま

○ 未だ一 ○ 未だこれあまをけはあま



火天大有

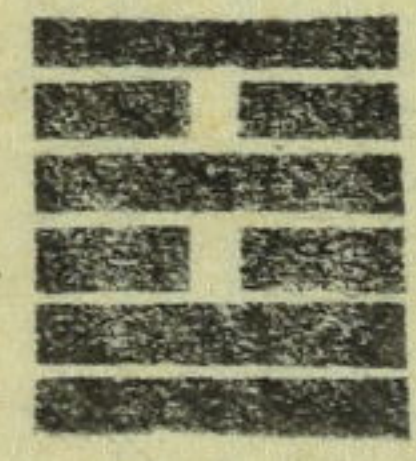
金玉滿堂 大明中天

おきてむ死人の名つきのいよけむもんさうしーく
ひらくおろしむ 女のやくいせ引さうしーく
くらうあり 又恒おゆをまづひまごころ
多しやうまをうとあくしーくひるもらあ
く
多しと死理文をまじやうひさしもの
こしとくふのふなるうそのふたりさう物
やあまこる時を何のやくふしーくせまもやう
まてるもの
古人ハ大なる死らくらう多し又事代まを

ひのこしーくさうひらう文をあるう同とれ
たあふらうしーくさう 女孝あるうす
あべー

○ 来るべし ○ 出るべし ○ 出るべし ○ 出るべし

やくふを引さう 晴天 利さし



火澤睽

猛虎陷阱 二女同居

女情あり女二人さうあらしひ福さるちか
まるとげむさうしーくしーく申あしーくらう
ちうさうさう理之 金銀のくらう物入あり
人辨らむと顔のそと風う見ゆきさ

多しうこしうるるるのやうおな

物とこおまをのり入るるこおまをるるはあんとらう

まをいひあるるさくものり

お人の面をおまをるるさくものりさくものり

破るる女小若むるる遠まをるるさくものり

○きさくは ○物ぞ ○うまひがじやうふさうり
多しうまをるるありそものり

○天をす けむらうとある
さくものり



火雷噬嗑

日中烏市 頤中有物

ちこおあいうるさあり 物おまひひ物とんとする

そおありひひ出しそり 和合まをるるなり

まをるるものあづうなるるはさかしくおらるる

がこくおのりうるるさくものりさくものり

と下より合せらるるさくものりさくものり

つくう物を入るるものり引くけさうひりさくものり

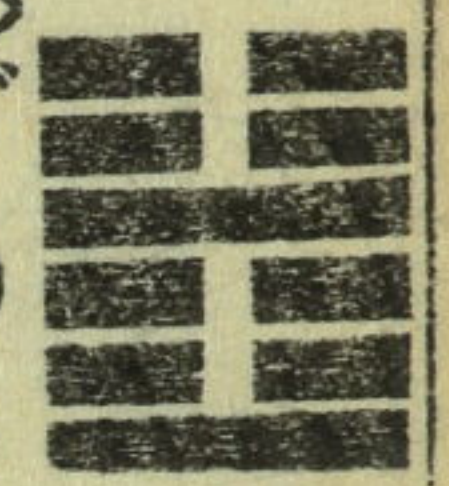
なるるる

お人かいうるめんとらうさくものりさくものり

ひひあるるさくものり

○まをるる ○物ぞ ○うまひがじやうふさうり
多しうまをるるありそものり

ひひあるるさくものり



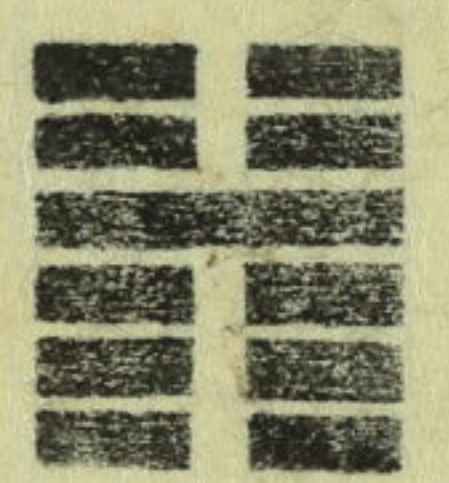
震為雷

震驚百里有聲無形

おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり

おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり

○ ちやく事 ○ 出べー ○ 利あふべー
くわして ○ 又風ウ ○ 利あふべー
くわして ○ 又風ウ ○ 利あふべー



雷地豫

鳳凰生雛 萬物發榮

おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり
おどろきあやがもいそぐくささぐしんあり

得くくしやうしころなるやうに

友人もねの心なり たしす 場の程を口のあんな
 おどりたひる あめ 年の程さうりり あめ 又伴林のあんなみびり

○

あつぐー

あつぐー

あつぐー

あつぐー

あつぐー

あつぐー

あつぐー

あつぐー

あつぐー

あつぐー

あつぐー

あつぐー

あつぐー

あつぐー

あつぐー

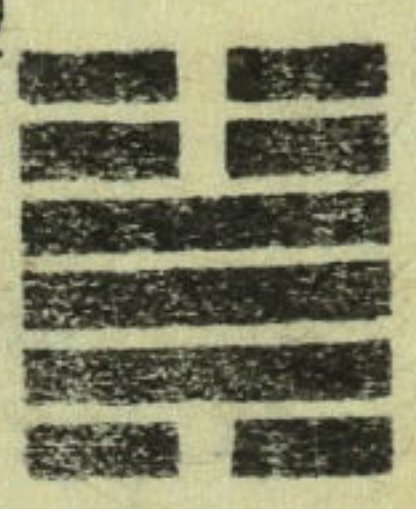


雷水解

春雷行雨 憂散生喜

必也かこごまへに 佐右のくらしう しびえ
 かこもよめどもあましくは 亦とあゆ 沈みん
 ぐらしうとくしやうなり 又とあわり
 よくとこのあなり
 ぐあひよく あめくらしうさうむり 又とき
 らぐー ましたむり 引くあわり 又とき
 あさう 救あるう 又あつぐー さんごとのり
 よこお福こものり
 友人ハあ方へあつたまりくうたかなんぎふ
 あひらうあさごあむ ちふあさきあさる
 やりうあ人う 文画あさる 又あつたあさる
 時々あつたあさる

○おそくさびー ⊖ 思んよりさびあり
 ⊕ ありありさびさびー ⊕ 中いさ
 出べー ⊕ ぬふさびー ⊖ 利うさびー



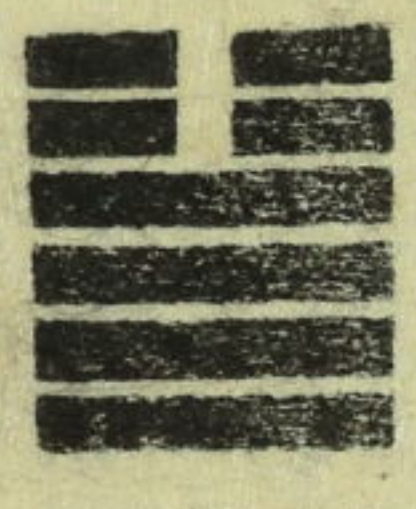
雷風恒

日月長明 四時不感

僕一久しに理ありん身むさきなりなすに佐和の
 ららありわんらあさそとつ日とせ
 大人ハせんといつてつひにさふふ月と當時の
 人をもあつて無ふあけを定まらぬや
 つひに月入の程 久しく用ゆる程 メくら
 りんは月入る 糸がむくく 金物
 りんは月入る 糸がむくく

おんハ長壽ウめささきウのひよありこみ
 久しく移りてささき 終りふは徳あり

○おそー ⊖ 重なるるるるぬべー ⊕ 重なるるる
 糸ハ叶 ⊕ ひより ⊖ 小吉あり



雷天大壯

先逆後順 羝羊觸藩

牙のうくらうぞうなるやう知れぬといふ
 むのふものをとまわらぬ親類ふ命力せぬ
 人ふあつてつひにさふふ月と當時の

又醫者の名んあり 形より引くをいふゆへに
 せきりひのなるり
 かりまがをいふり 引くをいふり 多岐に 引く
 けくろ 今をいふり つれあをいふり せくろをいふり
 右人の名をいふり 大ぬきをいふり 大ぬきを
 まくひをいふり せくろをいふり せくろをいふり
 うあぶる

○ おし 世と中まで きこるう ○ せくろ 引くをいふり
 ○ せくろ ○ せくろ ○ せくろ



雷山小過

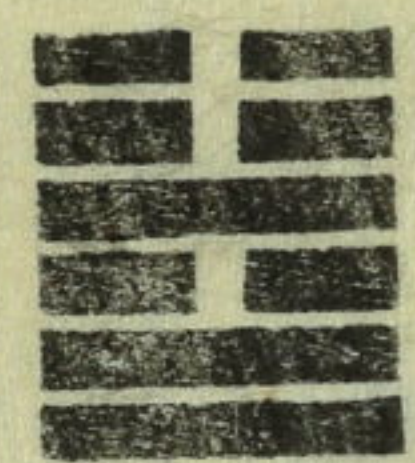
飛鳥遺音 上逆下順

他人のまゝいふるに かくおんまゝに
 かくまゝいふるあり 飛鳥遺音のまゝに
 なりゆゑおんまゝに せくろなる卦なり
 そのまゝいふるのまゝに せくろなる卦なり
 せくろなり
 おんまゝに せくろなる卦なり せくろなる卦なり
 つくろ せくろなる卦なり 又作る
 おんまゝに せくろなる卦なり せくろなる卦なり
 右人のまゝに せくろなる卦なり せくろなる卦なり
 のまゝに せくろなる卦なり せくろなる卦なり
 又おんまゝに せくろなる卦なり せくろなる卦なり

雷澤

○ きてる ○ ぶくろとありきくく
りり

○ あつせあくしと ○ くくろく ○ 利する



雷澤 啟妹

浮雲蔽日 陰陽不交

さるまゝなり 志やうどむく 初ふあるもの内へ
 入ぐことしめあうし 志やうあれどもまくとげむ
 んが おごやうあり 志やうあり 志やうあり
 めひ げあゝそものりり 志やうあり 志やうあり
 いを 卦なり

そめい入る 念もあゝ 志やうあり

花入る 志やうあり 女ふく 志やうあり

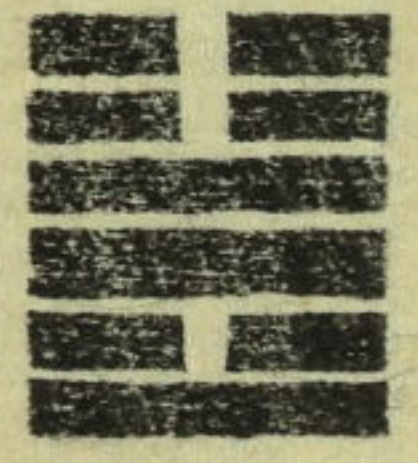
うきらうあり 志やうあり 志やうあり

きりぬけ

○ 志やうあり ○ 志やうあり

おとむらふ 志やうあり

○ 志やうあり ○ 志やうあり



雷火 豐

日麗中天 背暗向明

ふたきく 志やうあり 志やうあり
 あり 志やうあり 志やうあり

雷澤

二二

とびよろしとせのありしとのがせしるる
ありくとありやうあしとあんまなりぞこ
くらし多し

ちまかものといひが固あなりふらまし
やうおれあらしとくうとりまなるる
あらしのやうなるる

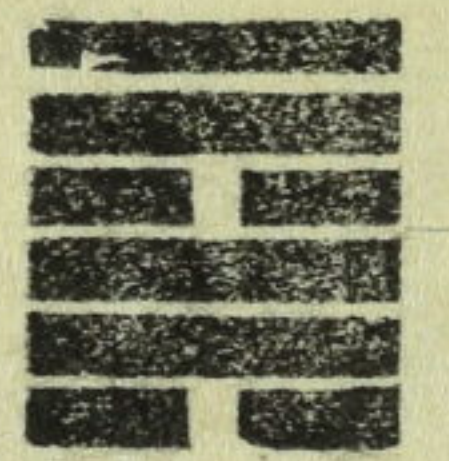
古人の大物人う大物やをたしとるるあま
大物を能くしとくさるるあまをたしとるる
だし

○あしび ○あしび ○あしび
○天晴る ○あらしくらしび
○あしび ○あしび ○あしび

増補卜筮旨節 卷下

平澤隨貞先生口授

門人 龍足子仲祇貞 談訂





巽為風

風行艸偃 上行下效

ふりまごまらび抱まごくかー象ひの
象と風人の人おせびげらまら但一象
うる女うまあへんかあひらう多しと
同ふふさつりま
あしびもあまらるる文をたのしむ

折々もむものおくるあかやうなるうらうら
あく物を入るう金ものうう月うひびき
あつものう
古人のあつるう物も人う續秋のう人う
あつるうあつるうきおせあつる人なり

○東うおせおせし ○物うじ 世に交うあつる

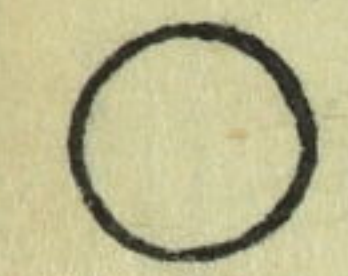


○ つひても
くうう後 ○風物うー ○ いさあひあり



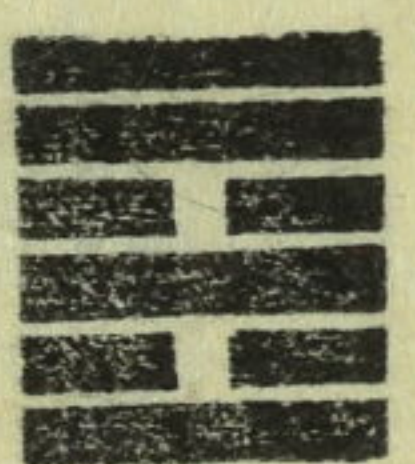
風天小畜

匣藏審劔 密雲不雨

そのせつとささるひ人のきうひくじと擡の
さう又恒水のくううとさくひやありと
あつるうあり物あつるう形あり
又あつるうへそのせたくうう卦
中らびせさるあつる 考あつるうなり
象物ものあつるうううう物うあつる
うううのそのうに傳
古人を物あつるうあつるのあり
人うあつるうあつるうううううう
あつるう人あつる

○ あつる ○ あつる ○ あつる
あつる あつる あつる

○ 易之ぬハあり ㊦ 易之ぬハあり

 風火家人 入海求珠 開花結子

その家の人 増し居りあるが但し 女
つゝそののららうあるが 笑ふりう 易のそ
おめとさるゝあるが 形ひのぞとあるが
自らのとさるゝあるが 止むとせのあり
今世のららう多し 止むとせのありぬ
とあり 終つふつとあり人のたまひ
ありありとありとあり 易のららうとあり

とらとありとありとあり

右人の時をまらうとあり 易のありしとあり

終つふとあり 終人

○ 易のららう ○ 家のをあらとあり ○ 易のららう

易のららう多し 晴天 易のららう

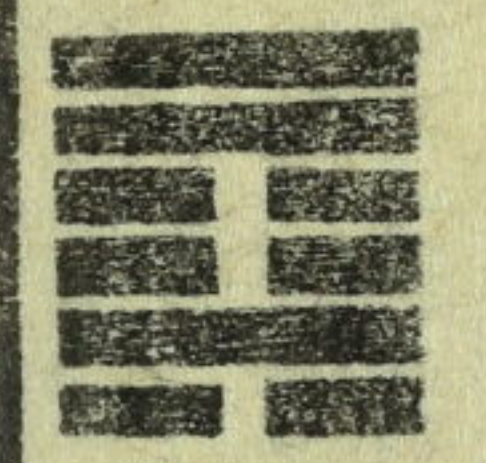
 風雷益 鴻鵠遇風 滴水添河

益のららう 益とありとありとあり
易のありとありとありとありとあり
易のありとありとありとありとあり

のりふらりむう又おのれどららりめとめたと
あかりありらざらりあり
ひらつてくありらつてくありやがれるり
やがれやがれり 肉をたふつてやがれり
右人もものやがれとてくあり人々 終りあり
さうをまめへありとめざりてらるるあり

○ さうらあおし ○ やらひ ○ 十のふらひ
さうらあおし

○ 風ぬり ○ 換多り
風ぬり



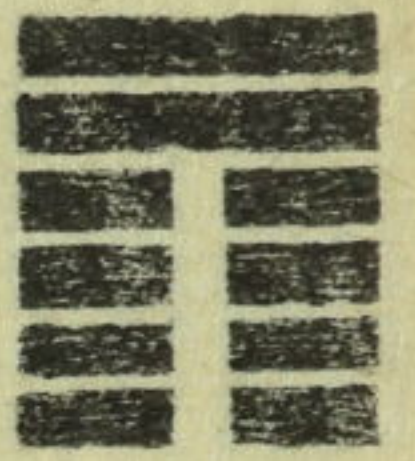
風水渙

順水行舟 大風吹物

さう方の人々ひらりあり 舟のあんを ああん
さうまらぬ 船のぞとてさうとらるるべし保りあり
だー ^{だん} 船をぬりてけやうなり 口傳
舟のうらあなをさうとてさう方よりすま
そのう あらぬをさうなり なるるあんを
いさくえらものり 救あるり あまう
右人 あらぬなどことづく あらぬをさう力入
けあどまらり あらぬと人々をさうあり
うたららりまらるるあり

○ 来らぬ ○ 知りぬり ○ 今夜云し
来らぬ

○ ぬり風 ○ 有利あり
ぬり風



風地觀

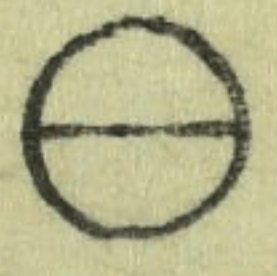
雲捲晴空 春花競發

ちと風の吹きやうふさぎなくおちつたがごとく
俗事のらうう あるひををりへんくうひ
同じくちあぶらありさきども親なるら
あつと人ふとりをらうつひあたらん
即ちうらあり居
えらうやうさくえらうそのうあつと引くたる
多量もさやうあつとさりうはふらう
丸けこのうあつとあるひハにのあつとさうり残
つあつとさう

友人ハあつとる 友人ハせどささるうさう
よふさうり有うなんざらうあつとさう
かえとらうあつと理あり人ふえくれらう人う
あつと



おそ



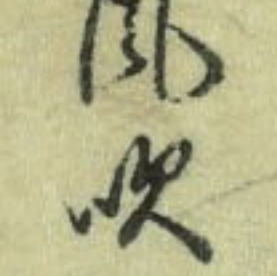
あつと



あつと

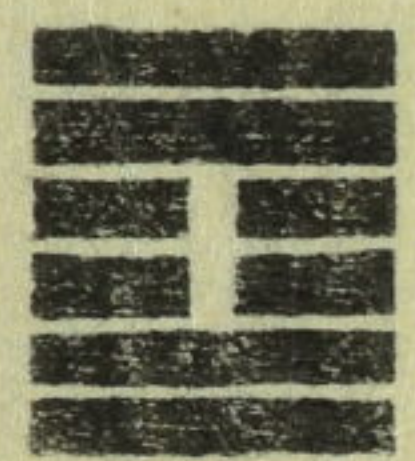


あつと



あつと

あつと



風澤中孚

鶴鳴子和 事有定期

女々しいんさうさうあつと
又さうのさうさうあつと

首節

おしころくろくろ 佐木のなんぎ ぶちあき
 ぐらたより せいあり 女つたろくろつらひ
 かんちよふろくろあき
 子のあんな 竜子のね あつたねあき
 中よちかあろくろくろあき 竜子あき
 つきまのあんな ちくのあきろくろあき
 なるろ

お人の文をまことあり 虎子のたつたろくろ
 かんちよふろくろあき
 ○ おそくとまこと
 ○ つまあふはあき
 ◎ かあきー ◎ ひより ◎ よありー

風山漸 ふうさんぜん

高山植木 積小成大

男より女をさふ卦あり あつたろくろあき
 うみまくとげとすー ややくとろくろあき
 おつたろくろあきー あきあつたろくろあき
 かんちよふろくろあき 佐木のろくろあき
 龍子のろくろあき
 さくろくろあき ぐあひろくろあき 入てろくろあき
 ああきろくろあき 引さけろくろあき ちよあき
 ああきろくろあき
 右人の佐木ろくろあきー ちよあき入ありあき

初のちどまらるるをせむひ人とおもひよき
あづかるあさ人交るる小若しむくぬぐー

○おそー ○ せごー ○ せごー ○ せごー
わひせりて 十分ふたー

○ ぬく風く ○ ぬくーくく

☵ 坎 爲 水

船渡重灘 外虚内實

水のながきとさごまぬぬありまづらう人
その小ゆる 又らう人ほあのとらめらる
あよトやーひをせぬくあかんさごあさず
うまひがらなり 形かたちぢやちのさうはら

あづー

救あるものう さーこむう かんあさう

流ながさう 火かきあさう ちあらうまさう

まりのまがさう かあまのう

右人のおひとりさるるひさう又勢をあら

さるう 文を今ふりさるるまぜひのさー

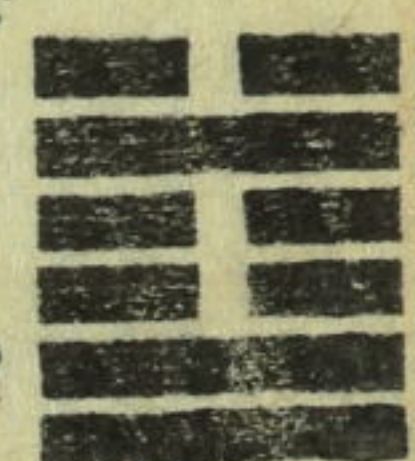
なるりさる ちくちやまふらをはくべー

まごく坎かんせんこくの人あり横ふ引さると

福ふくなる形かたち 勢せうひ終りあ

○ 来きぬぐー ○ せごー ○ せごー ○ せごー

○ ぬくありぬくさるるまじ ○ ぬくありぬく



水澤節

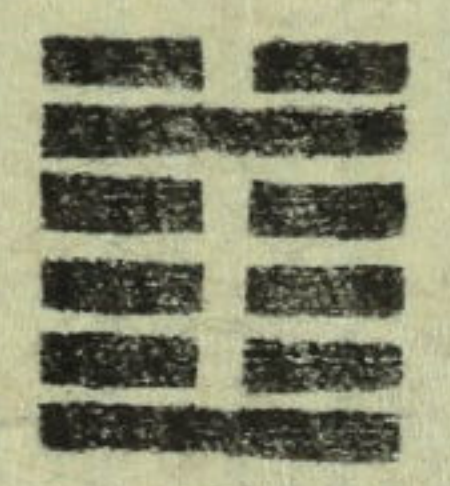
船行風横 寒暑有節

竹のぬゝあるごとく肉も節をみくも居るう
ざんざんいひまぬさげをいひるうそのふは静
あざとくも好べし少くもあよりいひる
いありをぢけをいひるくまを好むなり
うつりうもよありしういひあつてもども好む
おせ月をいひるよあふあり
そちあふおせのあつてものういひるう 志免
くまいひるのう井ふらびれあつるう
た人のふざんざんをいひるう 志免
ありくもいひるう 志免

あふるう 志免のよまあつるう かなれらるう
なつるう

○ おに(樹)ありてまろ ○ 足えが(に)むとまろ
おのり(り)まろ

○ ありてまろ(まろ) ○ ありてまろ(まろ)
ありてまろ(まろ)



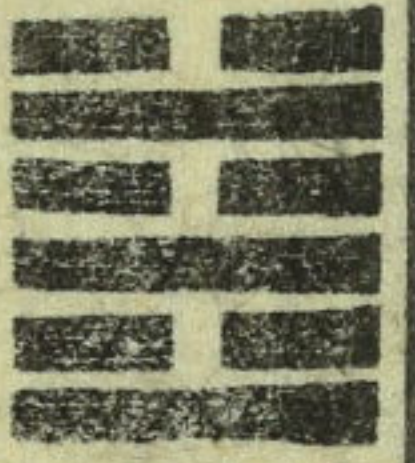
水雷屯

龍居淺水 萬物始生

あふるう 樹ありてまろのよまあつるう かなれらるう
なつるう
ありてまろ(まろ) ありてまろ(まろ)
ありてまろ(まろ) ありてまろ(まろ)
ありてまろ(まろ) ありてまろ(まろ)

是れお生のおしきりしと知る也
 さふふのりしと信おのりしと知る也
 教さふふなりきおなんふあふのりし
 ありおふあふなりきあり教おわさるのり
 ちうつくものりなりしと知る也
 即ちつくものりなりしと知る也
 右人ハあふあひつりしと信おをあふし
 ちうつくありなりしと信おをあふし
 ちうつくありなりしと信おをあふし

○未だき ○ 望ごうき ○ 利ごうき
 ○ 未だき ○ 望ごうき ○ 利ごうき
 ○ 未だき ○ 望ごうき ○ 利ごうき



水火既濟

舟楫濟川 陰陽配合

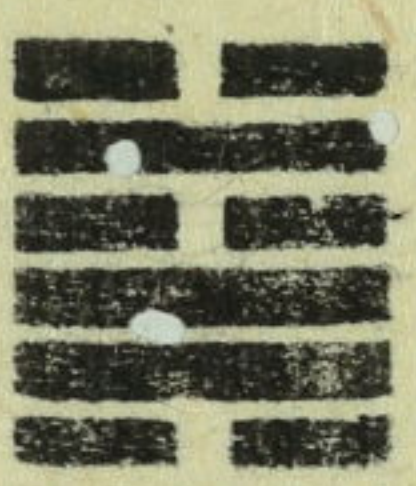
一えんぐあひあくしと申す事と知る也
 先を申す事と申す事と知る也
 先を申す事と申す事と知る也
 先を申す事と申す事と知る也
 先を申す事と申す事と知る也
 先を申す事と申す事と知る也
 先を申す事と申す事と知る也
 先を申す事と申す事と知る也
 先を申す事と申す事と知る也
 先を申す事と申す事と知る也

哲人の教はつうふ文をあるつひのりやある
あひまじりつうふりあるうらまじりつうふ
ちああるうらまじりありつうふ

○まやれが来し ○物さるるぬべし

○あひくこのこと ○目利世を信じて

○あひよく理うま



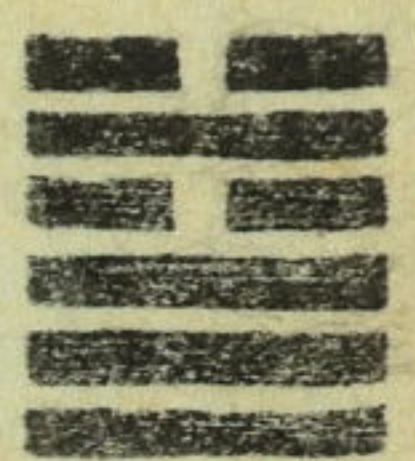
水風井

珠藏深淵 守静安常

つるべの注水のされつること考へてし
物のさまりせうしあひつうふまじり

らうんそのつうふなり 志のつうふ人よ
あつびつうふつうふんつうふどまらう
つうふつうふつうふつうふつうふ
あつびつうふつうふつうふつうふ
あつびつうふつうふつうふつうふ

○来つて ○まよくつてえまは ○たつて
あつびつうふ ○あつびつうふ



水天需

雲靄天 密雲不雨

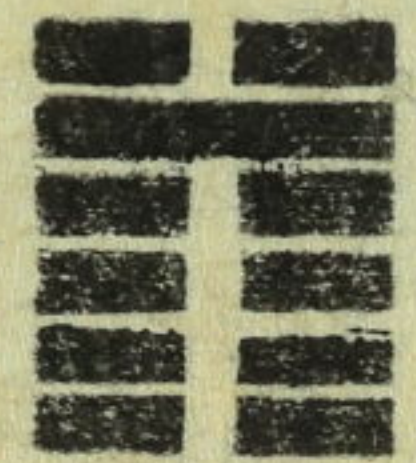
そのあびをうまうとくしとらちのぬけと
 むすくばぬきありと今うくとまてとと
 あぬやうし けりあれとものびくふあり
 らちあつととととととととととととと
 そのあつととととととととととととと
 あめらとととととととととととととと
 とたくとととととととととととととと
 つらぬとととととととととととととと
 有人の時あつとととととととととととととと

末の世のいまはけぬきとととととととととととととと



○ 時とととととととととととととと
 ○ とととととととととととととと
 ○ とととととととととととととと

○ 事とととととととととととととと
 ○ 利とととととととととととととと



水地比

衆星拱北 水行地上

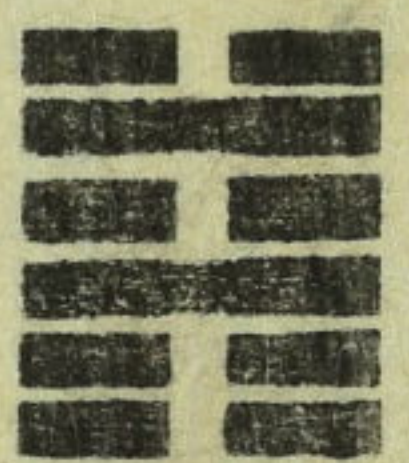
大子よーかあありとととととととととととととと
 をととととととととととととととととととと
 人あつととととととととととととととととととと
 あつととととととととととととととととととと

まこと病者の心をなやませしむ
のりうらるるしうをどつとくをどめ秘をり
ありて命なりしつと命せしむるひうらる
まことあつる 命なりしつと命せしむる
又そのとれためり
病人の病しを治すの心を命せしむる
終りあつるなり

○ 来るものむしとされども事ごとく ○ くるく

あつるしむしとされども事ごとく ○ くるく
那うかみ併ふくあれども
少衆の人西表にす

○ ぬるぬるのうらるる ○ とかく扱き



水山蹇

飛雁啣蘆背明向暗

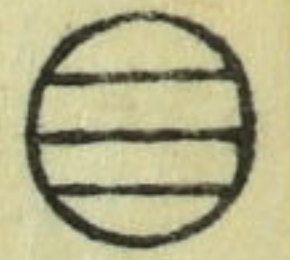
あつるなるやむとふんそるなり
くしとふしつとめりましとまぬるま
るるなり

引くあつるものうまをくかくめり
あつるなる 命とあつる 命とあつる
病人の病しとあつる 命とあつる
まことあつる 命とあつる 命とあつる
くしとあつる 命とあつる 命とあつる

○ 来るものむし ○ くるく

四十一

四十一



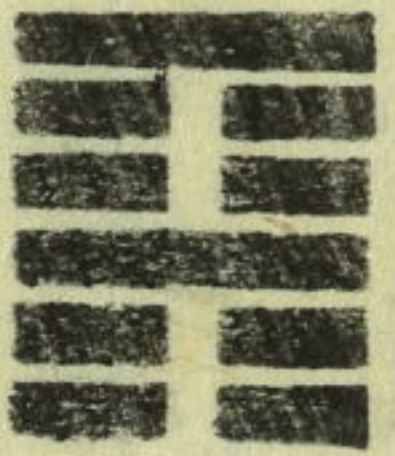
つしそりし勢ふあふま



多きうおそるるべし



つしそりし

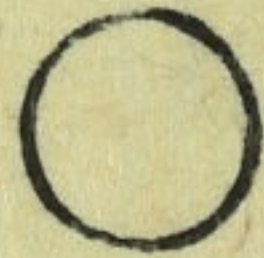


艮為山

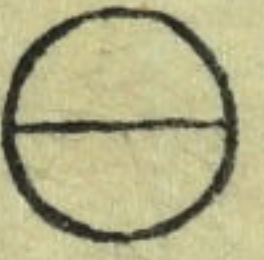
遊魚避網 積小成高

くさう多し 扱ひうまひあふう あふゆ
ささまらひしききふひ ぶらふひ ぶらふニツま
なりまらひしききふひ 金銀ふくらふ
多く百中あふしうらふ
つまらふまらふ ぶらふまらふ ぶらふまらふ
まらふまらふ ぶらふまらふ ぶらふまらふ

引うあふう 又扱ひものうよまらふあふまらふ物う
さしそりものうよまらふあふまらふものう
右人のかしらふひをわり おまらひものう
文うあふう ぶらひりかまらふ ぶらひりものう
なるべし



あふう



あふう



あふう

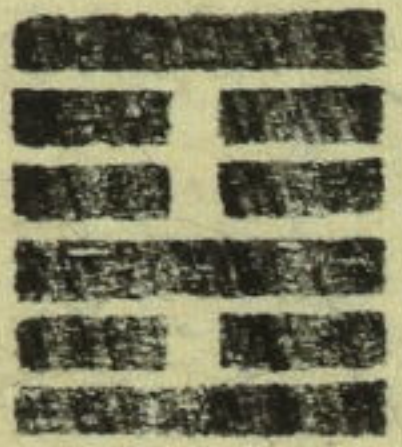
かごとしのまらひり ぶらふ
まらふまらふ



あふう



あふう



山火賁

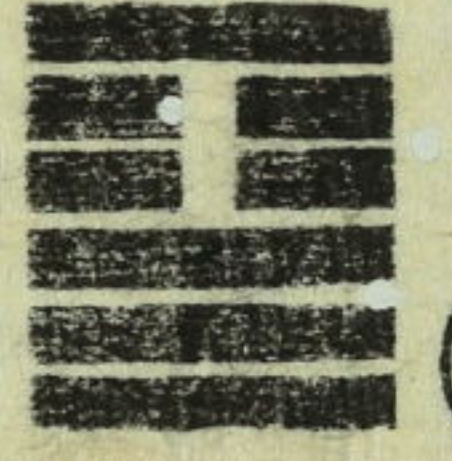
猛虎負嵎 光明通泰

あふまらひしききふひ あふまらひしききふひ

之御心とらありあり 形ひのぞとあり
 人々あつてのせええさるまじくあつて
 ありとあらはれしつと 位和のささあり
 又と引しつとさくまに人おまけおどあつて
 ささりつとあつてささりあり又とあつてささり
 らあつて
 ささりつとあつてささりあり又とあつてささり
 つまのあつてささりあつてささり又とあつて
 せうぶなるめり文を引つけらる 引えらる
 あつてささりつとあつてささり
 有人のつとあつてささり 文を引えらるつとあつて
 ちつとあつて 徳あつて

○ 来りて ○ 出づり ○ 入りて
さつとありさつとありさつとあり

(10) 晴天 丈夫あるもを改む

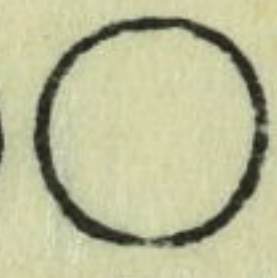


山天太畜
えんてんたいちく

龍潛大壘 積小成大

人の心移りて 命和のささりあり
 命のありありささり ちつとあつてささり
 ささりあつてささり ちつとあつてささり
 ささりあつてささり ちつとあつてささり
 ささりあつてささり ちつとあつてささり
 ささりあつてささり ちつとあつてささり
 ささりあつてささり ちつとあつてささり

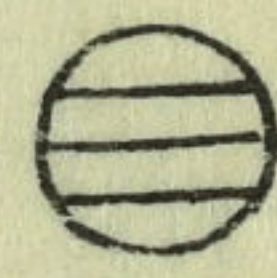
右人とむひふちあり〜〜〜〜〜
たつら 場まら 任あさ〜〜〜
なるべ〜



さ〜〜〜初はし〜〜〜ひま



核中の核あり
四つひるあり



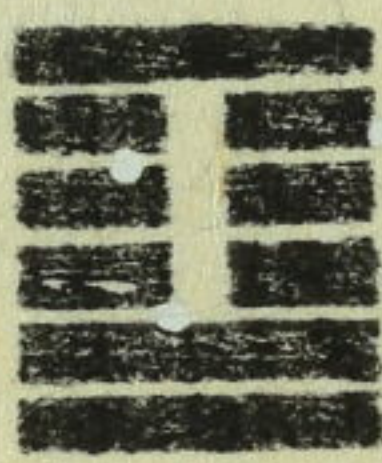
世ひふ一物さそ飛ふあり〜



さ〜〜ひあり〜〜〜



さ〜〜〜ひあり



山澤損

鑿石見玉 握土為山

見光のあんあり せんら〜〜
義程づくの色の入多〜 物を換〜

かあまがあまりよう〜
あ〜〜あ〜

あ〜〜あ〜
あ〜〜あ〜

あ〜〜あ〜

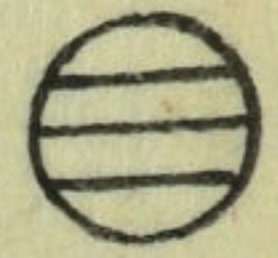
右人をも目とふあ〜〜
あ〜〜あ〜



あ〜



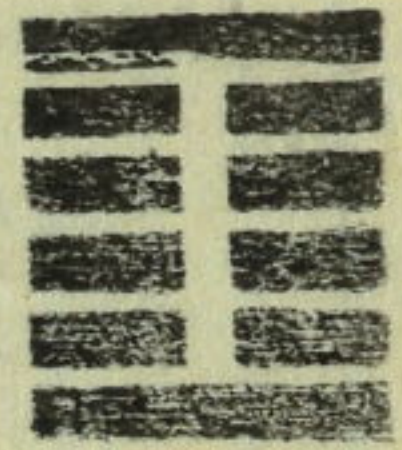
あ〜〜あ〜



始るありぬやう
やうくあり



龍を懼まべし
小吉



山雷頤

龍隱深潭 遷善遠惡

内ふふくしふる多きあり 親親々あこしれ
そのとあられとやあふりあり 周下のもの
ゆんばんとつひとらるるをあり せしふる
りあり いひやうとささるるのべし
内ふそのと包こころやあひおほくゆ
食物うらひ物ふくくうくうあのみとや
あふなをを 家業ふつくうあしくあのみと
らるるべし

老人ハ大せいと一とひのちあ入るる
智るやとせむじやあふり 老人方へ
るる 文を 老人う 又大老人うあふり



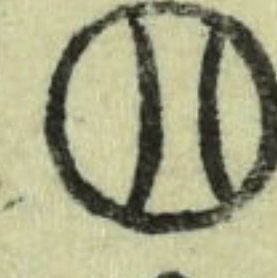
きこるまよト



内ふ



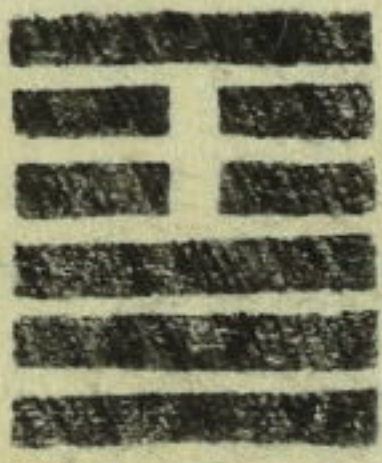
長引べし内ふ
とらるるをひ出



山



中吉



山風蠱

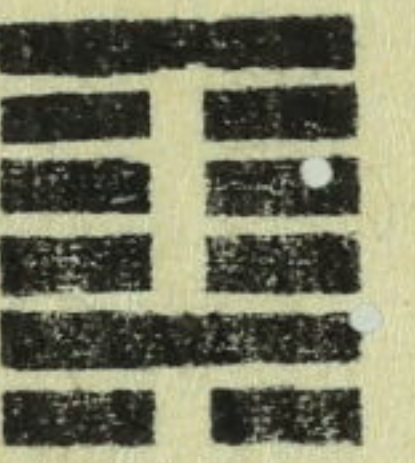
三蟲食血 以惡害善

福と福とまをさすひるものもあてらる
内ふあをさすに知へるるをいひあてらる
しめあをさすに知へるるをいひあてらる
りるる多しニツのむしをニツあてらる

入血を出しちを食むことなり
殺あるものりくせある中より引違しるり
中よりりり物を入るる文を引るものり
古人の事ひ力ある物をやがるりかき事あり
なるりつらむひち急あぶる

○おそるるべし ○おぞごし ○お引べし
は信る

○おそるるべし ○おぞごし ○お引べし
は信る



山水蒙

人蔵祿害 萬物發生

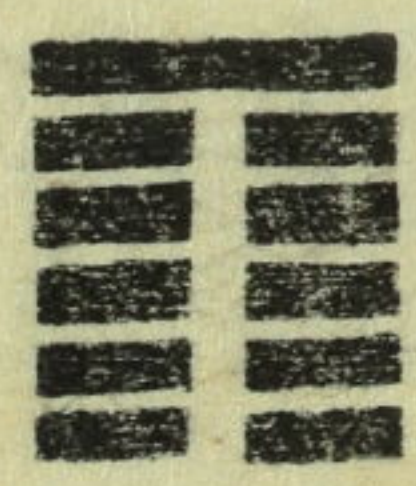
女らあともなどのまのひらるるやうなり

そのごとさごゆりぐこくあつてさう侍
やうなりおちつてさごこしこれどもちあ残
ゆらるるやうああんのうへことよあしく
とりとさありあはよし
あとりもやうつるなり物をや合る
ぐあひよあたりまらるるさるるつやあきり
子どもの持あさびあのうらるるきさめり
おんちああを文をたあ孝りさるるほほは
子ととり女らふああひらるる信あをああ
ありきいりり束えさるるをましるる終あ
○あさるるあし ○あごしその中あり

高節

四十六

山 地 剝



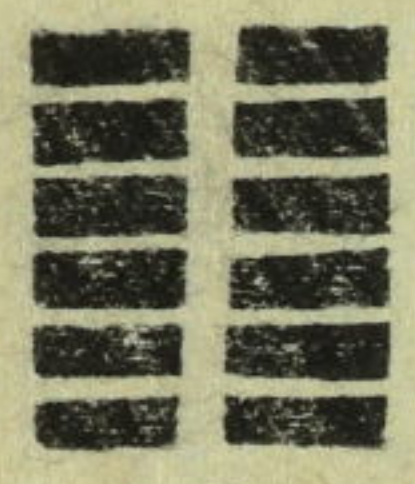
山 地 剝

去舊生新 群陰剝盡

のかりつめをさつしと落さずなり
 あゆしつしとあきんちあつたまふ
 象一人正ふましくちせひを中あふ程も
 あり又ちせひをあさぐへ物成さしへ知を
 程ありまふなりと成ると程あり
 引さるものまふなりとあつたまふ
 わげの程九まふととあつたまふをよせ
 くらあつたまふおのまふのりつたまふ

ひつき あつむつ つまらふり
 在人ハちせいのかいらの場をうせひなり
 勇あつら むひをあつらる人う終りあ
 まふなり

○ 剥 (Sun over Mountain)



坤 爲 地

生載萬物 博厚無疆

人のせひ多き多くまふなりありちせいの
 くらあつたまふおのまふのりつたまふ

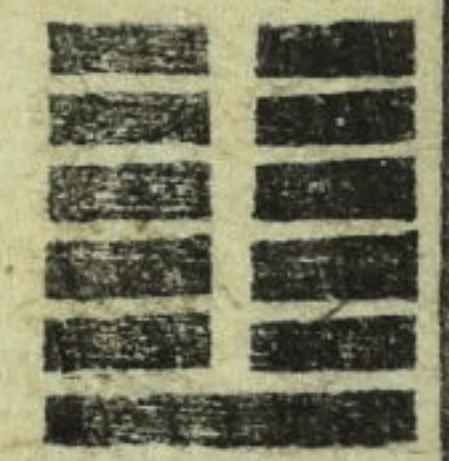
音 録

ふつをぐしく心算するありまある人のれを
 あひてあり
 ひやうしどろりあり ぬるり せり ころりき
 こまらなるり ほくくくくくくくくくくく
 あるるあり
 古くくくくくくくくくくくくくくくく
 ちせふあつたるり ひやうしどろりあるり
 ちせふくくくくくくくくくくくくくくくく

○おほし 〇くくくくくくくくあり

〇くくくくくくくくくくくくくくくく

利と扱もな



地雷復

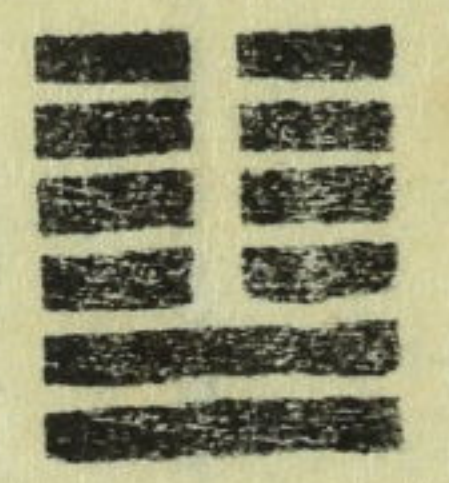
淘沙見金 反覆往来

くくくくくくあり ちうおのくくくあり
 けくくくくくくくくあり 又おくくくく
 あり 又おくくくくくくあり けくくく
 ちけくくくくくくあり 金復
 ちありくくくくあり
 ひくくくくくくあり ころりくくくあり
 けくくくくくくあり せのありくくくあり
 うくくくくくくあり ちんくくくあり
 ころりくくくあり
 ちんくくくくくあり ちんくくくく

こまぐくありたるあべー

○こまぐく ○あべー ○ 初のあべんへ ともく
も引くらうあべー

○ ぬうまう ○ とのふあし 利あり

 地澤臨 鳳入雞群 以上臨下

あうしやうのそだうまひくろしとぢうあよ
くろしーとまふりまきしーすーあひのまふ
あひ成ちりのぞまふこぞまふまふあり
今衆のせあありあそふりありあり
人あしはあり川のあとりよまむ人々

とあくのぞまあり

あーくがまありまむまもまゆ 文々

今まのりやがまあまだうてあ用ひく

まらあのりてうまあまのり

存んあまあまのりあのぞまうけまら


ぢうあひのらうりう ころだとらああり

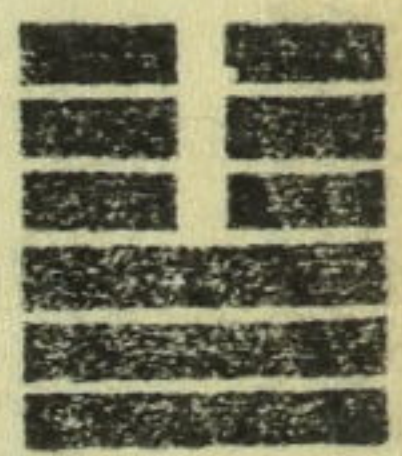
ひくまあまあまらう ああらうり 死らう

あべー

○こまぐく ○あべー ○あべーしきああありあべし

○ とうくんのあまのりあり
あまれどうあまべー ○ ぬ

○ かんあま

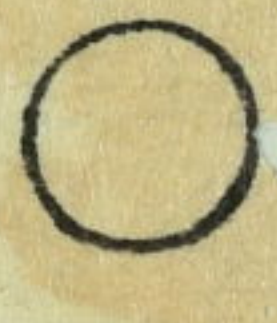


地天泰

天地交暢 小往大来

うあまをさるる徳をよめ事ごとをもぞんト一仕
あをせいのそれほごふあつた人のえさるるあ
よそれども肉ふらう多く合衆ふらじま
ぢうおにらうあり 邪望をうぐくくは
やうをさるるよくくく 位ごそれありと
くゆぐー
久しく用らう 凡あつても 事しやうのや
しれたものを身を入くあくくくくくく
あつあつとくくく又やがさくくくくくく
くあふまらるるものう 又くくくくくく

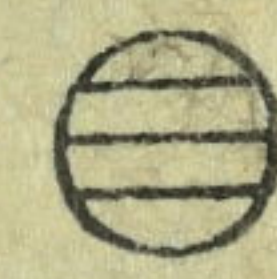
ごあひよ死う
おんく文くさ あつてひく ことをもさ
さぬう くくく死う 多くありとくく
なるぐー



おそー



ええくくくく
重く重くうう



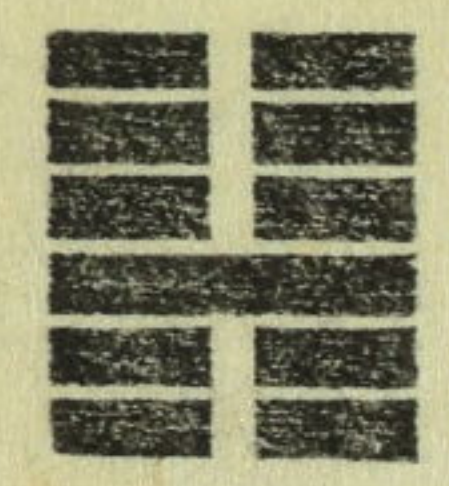
ちうぐー
うう



くう



換産なりあうくく



地山謙

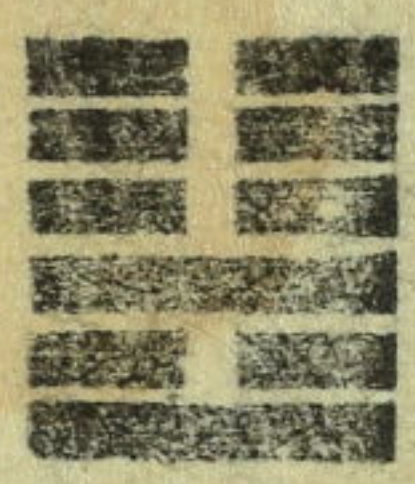
地中有山 仰高乾下

ちうかごく 固うくさうやあめうなり
ちうぐくくくくく ちうくくくくく

さういふもろしうにぞふめる人ありてかよ
 なるべし一のちをよしと思ふまをさうの條の
 理あり
 ちりかごと のびる ものをかきまゝあり
 中うあり 喜あり さのくまのう 食相
 多木の忍んあり

たんと 既成なるう 幸ひのあつう又さう
 ありちりかざるう あや既成同ふあふさるう
 げいのうありさう

○ おきし ○ 一の中あり
 ○ べいぶい ○ けんふいをさの
 飛うあふい ○ ちりか ○ 中あり



地火明夷

鳳皇垂翼出処入暗

同士の人のまをさうの かんあんまくらさう
 及、めう人の人のせななどありさうつひり
 運むさうさう 又げいのうまあびさう
 さうもあり 文王のゆうさふさうさう
 ろうふ入一せんさうんさうくれさうさう
 ちりかべし一さびちりかさうさうさうさう
 つげべし

口のあんな
おんをさういふとゆりてく
又おそりゆきうやがきあるう
見念べー

○ おそくある ○ おそく出べー

くあふされどもいふ
おそりあるー



地水師

天馬出群 以寡伏衆

あゆうらなる人なり あらと命あらしむ
あてらるるまのそりあるどなり

あらしむ 勢まなるあり又た八なり
小人をわしつらりあ象なるをたあらしむ
肉しやうかりぞもくをさあせぢりまぢ
まらららるる多し 物の所をんをまらる事
あり
まらるとし 命あらしむとむり 志免らるる
文らと せがごとく ながきあん せもがとらる
まのり ながとらる 救あらしむとら 命を物
おんハせんでくのん 争ひおりあらしむ
ひのこしとらるるま 文をあるり 夫せ
あせ 師をんなどまらる せどああり せよ
らぬめる

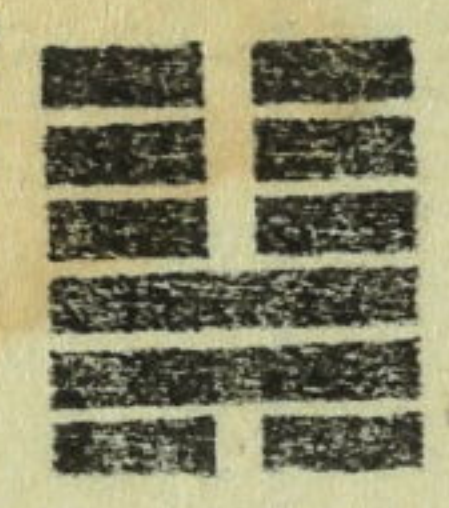
言下

五十二

○ 日乃まぶし 来るべし 此に

○ ありそひあり 来り

○ ありそひあり 申者



地風昇

靈鳥翱翔 顯達光明

の勇さき かくがく ありそひ 又 後 此れ
らいつ 形を 中し 来り けし こと かなひ
がこし のち くる こと 人 志の せあり
ちふ あり こと あり あり
あげ あり こと あり 系 聖 不 の あり といく

ものり のそ かく くる こと のり 大い の見
あり せ あり こと あり

有人 あり あり の あり くる こと 又 あり ぎ
こと の こと こと げ くる こと あり あり あり
こと こと あり あり あり の あり こと あり こと
こと こと こと こと こと こと こと こと こと

あり

○ 来るべし あり こと あり こと あり こと あり こと

○ 来るべし あり こと あり こと あり こと あり こと

右六十四卦辭解終

九東 三南 采申

右辭解の外は侍多し
よく考へ知る處しなり
ハ段の侍あり口授せり多
得くト筮のとき我のとき見
知る處し

五西 交亥 元比 豊辰

○病やまひのうらなひ

醫道いどう便易べんぎなりくありとどと
捷徑ちやくちやうととふありを口傳多し

乾けん 熱あつのうらなひ 熱あつのうらなひ 熱あつのうらなひ 熱あつのうらなひ

元げん 食傷しょくやう 胃いのあそく 熱あつのうらなひ 熱あつのうらなひ

離り 熱あつのうらなひ 熱あつのうらなひ 熱あつのうらなひ 熱あつのうらなひ

九東

震

後のそりあめ 後まき 二候ふくろ 心身のそりあめ

巽

牙血のそりあめ 顔面おりく 下ろく 後まきの

坎

後まき 邪毒の 種物う血の元を

艮

血うろつて 血うろつて 引つりて

坤

後まきのそりあめ 胃毒の 食ふ 二候あめ

木

春 肝 手足 膽腑 眼筋 爪 味酸 色青

火

夏 心 目 小腸 舌 血毛 味苦 色赤

土

青 脾 腹 胃腑 唇肌肉 乳 味甘 色黄

金

秋 肺 胸 大腸 鼻皮 息 味辛 色白

水

冬 腎 腰 膀胱 耳骨 齒 味鹹 色黒

各病のうろつたひハ十が一とあつたは 於使易

言

五十五

九東

八復己

三南

一審

五西

二交

元北

巽黃

○百人一首の射覆の傳

百人一首の射覆の傳の略に卦爻の理を明し其の
技者といふは百人の月一を以て書くありたり
は授多しといふは其の理を以て書くありたり

乾

秋 冬 日 雲 霞 多 遠 人心 大 心

兌

秋 水 色 舟 の 歌 人 心 憂 心 悲
少 女 夜 夕 舟 舟

離

夏 日 火 花 彩 文 書 心 別 心 独 心
中 女 言 け 抱 心 心

震 春

樹 竹 艸 神 氣 歌 流水 花 鳥 心 歌
長 男 言 多 一 心 心 心 心

巽

夏 春 名 和 風 葉 草 木 花 心 歌 多
長 女 考 心 心

坎

冬 水 色 秋 雨 名 氣 憂 心 舟
中 男 又 傳 心 歌

艮

冬 春 山 歌 詠 多 名 和 歌
少 男 夕 夜 心 登

坤

秋 夏 古 心 古 心 入 活 和 系 地 歩 心
野 婦 衆

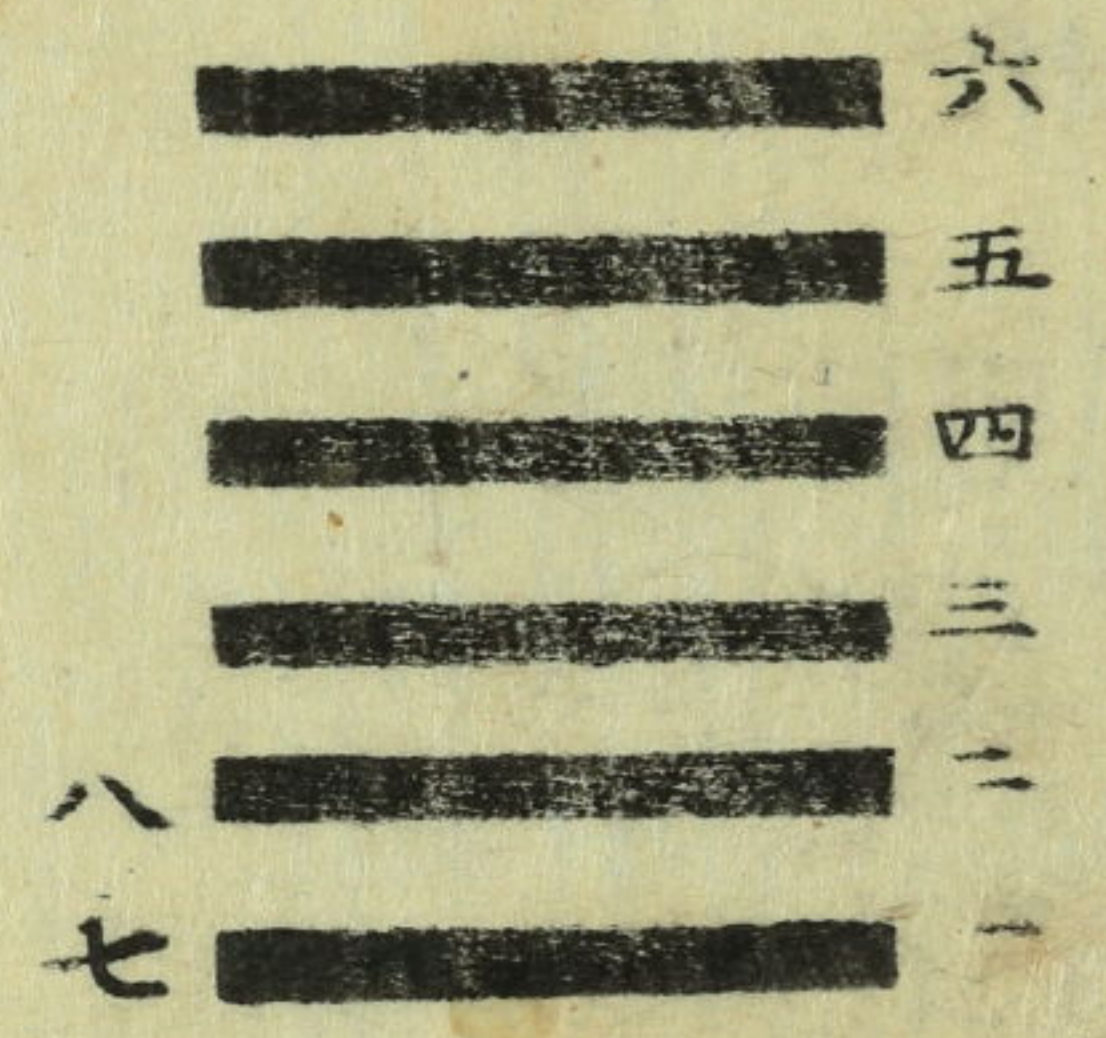
初は季の事とすけく坤象え命をくこころ
 だる百そののち弱く事とやとある人と成
 こころぐくしたとを風地觀の風水漁也
 戸の事とすとのくもある事先秋あり
 坤小秋あり巽の事と坎の事とより命をく
 する小漢人のちらん風地觀の事とす
 りを天智と皇秋の田に凶秋なるべしはん
 百そのゆるり小知なるりたとを坤九小とく
 が小蹇出あり百人のちとあるなるものち
 坤九より初なる一皆このありえおとす
 初は傳あり

○とと卦の傳

六ツの卦を初と入と初と坤と
 何れとくら出る卦を上卦とく又もむ
 だるそをも下卦とくはるく復たのつけ
 やうハ下卦乾あるを初爻へつと兌ハ二
 爻離ハ三爻震ハ四爻巽ハ五爻坎ハ上爻
 既ハ初爻坤ハ二爻ととどり付くあり
 らるくを爻とすく事とす

東齋

○ 爻多竹松の圖



爻ハかくのごとく
下卦のみをかく
なり

増補卜筮旨節終



吾^カ隨貞先生以^テ卜筮^ヲ鳴^ル于
 世^ニ頃^ヨ為^ニ童蒙^ノ著^ニ一書^ヲ目^ノ曰^ク
 旨^ノ節^ト僕辱^シ在于門牆之末^ニ
 因^テ趣^テ而鏤梓^ハ嗚呼此書成^ル
 也^ニ不^レ獨^リ吾儕^ノ幸^シ抑^シ六^ニ一^ニ世

九東
南曆

之幸也

寶曆癸酉夏四月

江東門人龍足子仲祇真

頓首

明和七再板
安永五新刻
文政八新刻



文政八年酉正月再刻

京都書林

寺町通御池上

鉛屋安兵衛

大阪書林

高麗橋壹丁目

藤屋彌兵衛

東都書林

日本橋新右衛門町

前川六左衛門

尾張書林

名護屋玉屋町

永樂屋東

